

「若狭の自然の中で＜不登校児童生徒支援事業＞～東海市との連携～」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
—	—	18	17（愛知県東海市）

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・課題を抱える児童・生徒が、若狭湾の雄大な自然の中で心身をリフレッシュするとともに、参加者同士や参加者とボランティアの交流を図り、チャレンジしようとする意欲を高める。
- ・課題を抱える児童・生徒が自然体験活動を通して、より良い効果を得られるようなプログラム開発を行い、近隣青少年教育施設・教育委員会・学校等にプログラムの提供及び発信をしていく。

◆期日・期間

2011年9月17日（土）～ 2011年9月19日（月） 2泊3日

◆連携機関

東海市教育委員会（適応指導教室：ほっと東海「横須賀教室」「上野教室」）

◆参加者分析

- ・東海市適応指導教室（ほっと東海2教室）に参加している児童・生徒および東海市教育委員会、適応指導教室（ほっと東海②教室）スタッフの計33名が参加。
- ・児童・生徒は所属教室ごとのまとまりが2教室あるが、東海市内の小中学校で保健室登校をしている児童・生徒の参加を含め、全体が顔を合わせるのは今回が初めてであり、実質的に3グループからなる。

◆企画のポイント

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
九月十七日（土）			東海市 出発		はじまりのつどい	昼食		施設見学等 アイスブレーキン	・浜辺を歩く① ・浜遊び ・浜をながめる （海とふれあう）	夕食	自由時間		ゆったりタイム ・夕日を眺める① ・選択内容最終決定	入浴 ・ボランティアたちとの語り①		就寝
九月十八日（日）	朝のつどい 朝食 清掃			選択活動① （海に親しむ） ・シーカヤック ・磯観察・磯釣り	・浜辺を歩く② ・グラスボート	昼食		選択活動② ・カッター活動 （海を感じる）	・浜辺を歩く③	夕食	自由時間		ゆったりタイム ・夕日を眺める② ・手紙を書こう	入浴 ・ボランティアたちとの語り②		就寝
九月十九日（月）	朝のつどい 朝食 清掃			選択活動③ （海とともに） ・セルフプラン ・スノーケリング	等	昼食		世久見到着 自然の家 船出 おわりのつどい		東海市 着						

(1) 選択活動で自己決定能力の向上／『チャレンジ』

選択活動をプログラムの中心に据えることで参加者が興味・関心を基に「自分で決めた」活動に取り組むことで責任感を育みながら自己決定能力の向上を図る。

(2) カッター活動で協力・挑戦／『チャレンジ』

本施設の代表的な活動プログラム「カッター活動」を通して、協力することの大切さを学び、自分自身の限界への挑戦ができるような場の提供をし、自己肯定感を十分に味わわせながら、一人ひとりが自信を持って生活できる素地をつくる。

(3) ゆとりをもった生活時間の設定／『リフレッシュ』

基本的な生活習慣・生活時間を守りながらプログラム間のインターバルを多く設け、ゆったりとした時間の中で、3日間を安心して自主的に行動できるように時間設定する。

(4) 学生ボランティアとの交流／『リフレッシュ』『チャレンジ』

学生ボランティアと交流を図り、活動の中で安心して自己開示を行いながら、一歩踏み出せる自分自身を見出せるような場の提供および時間を設定する。

これら4つのポイントを主眼におき、ねらいである「リフレッシュ」と「チャレンジ」を念頭に置いて3日間のプログラムを構成した。

◆運営のポイント

- ・時間の設定については十分な「ゆとり」をもってプログラム設定を行った。課題を抱える児童・生徒にとって、時間の制約がチャレンジ意欲を損ねてしまうひとつの要因でもあると考え、ゆったりとした時間の中で、自主的にかつ意欲的な行動を生むための配慮を施した。
- ・全スタッフが1つのチームとなって、どの場面でも役割分担を明確にししながら、参加児童・生徒の活動をサポートできる体制を作った。

◆安全管理のポイント

- ・本施設での活動に精通した登録ボランティアを、各活動現場の要所に配置し、各個人へのサポートも含め安心して活動できるように配慮した。
- ・特に海の活動では、余裕を持ったスタッフ配置と、参加者への入念な事前指導を行った。
- ・参加者の体力や精神的状況を把握しながら、臨機応変な対応ができるようにプログラム編成やスタッフ配置を考え、安心して活動に参加できるように配慮した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

<こども>

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	56%	44%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	82%	18%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	46%	45%	9%	0%

<おとな>

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	67%	33%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	83%	17%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	42%	58%	0%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

<参加者：児童・生徒>

- ・体力が保ってくれて良かった。
- ・若狭から帰った後、仲が良くないおじいさんと会話できるようになった。
- ・いろいろな人と関わることは、大切だと思った。

- ・今度来るときは、ボランティアとしていきたいです。
- ・最初は不安だったけれど、楽しく過ごせて、充実した3日間でした。また、機会があったら行きたいです。

<東海市スタッフ>

- ・本当にありがとうございました。これで終わらぬように青空教室に参加した子供達がどのように学校復帰していくかを見届けていきたいと思えます。大変お世話になりました。
- ・海や山という自然の中で見せる生徒の生き生きとした姿に、涙が出るほど感動しました。臨床心理士を目指しておりますが、子供の病的な部分、不適應の部分のみではなく、今回の活動で見られたような、子供の健康的な部分にも着目できるようなスタンスの重要性を再認識しました。また、ボランティアの方々の生徒との関わる姿にも感服しました。「人と人が関わる」と言うことの醍醐味、おもしろさを強く感じることができました。私自身にとっても、多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。
- ・参加した生徒達の今後を、豊かな生活にしていきたい。
- ・自然の中にいることで、子供達は感じたり、考えたりすることがたくさんあったと思えます。普段の生活では、味わえない貴重な体験ができる若狭の青空教室が、これからも続いていくことを願っています。本当にありがとうございました。
- ・普段、個別活動が多い子供達が、カッターを漕ぐという協同活動をする姿は、とても輝いていました。逆に私が元気づけられました。
- ・ボランティアの方々の存在にとっても感謝しています。自分に寄り添い温かく接してもらえる機会の少ない生徒達にとっては、夢のような3日間だったと思えます。ありがとうございました。また来年、お会いできる日を楽しみにしています。
- ・初日と最終日で、子供達の顔つきが全く違っていました。大きな自然に囲まれた緩急の中での体験、ボランティアの方々との関わり、いろんなことが子供達にとって最高の思い出となり、今後の力になってくれるといいなと思えました。
- ・参加した児童・生徒の様子を日常見ているので、活動についていけるか心配していましたが、メリハリのある（休むときは休める）時間の流れで、持っている力が十二分に発揮できたように思います。
- ・特に安全面については、ほとんどマンツウーマン、カッターでも事前指導を丁寧にして、自然に実際の活動に移っていったので、不安もなく見ることができました。
- ・事前の説明と、間際での変更可能というのも良かったです。
- ・現地での活動以前の準備も、情報の伝達が相互にでき、ボランティアさんと子供達の顔合わせもありとても良かったと思えます。
- ・どのスタッフさんも、とても、感じがよいと思いましたが、しげさんがいつでも笑顔でお話の仕方もとても好感が持てて、自分も見習いたいと思った。
- ・泊まりも含め、子供の様子を見たり、関わったりする中で、これまで気づかなかった姿に出会うことができました。また、若狭の自然のことをよくご存じの指導員さん、ボランティアさんが、子供が自発的に、あるいは、少し背中を押してくださることで、だんだんと良い表情や、生き生きとした動きを見せるようになったので、印象的だった。
- ・本当に、何度も東海市にも足を運んでいただき、細かく、行き届いた配慮の中で、子供達は気持ちと経験の幅を広げることができました。本当にありがとうございました。
- ・できない（できなかった）活動に対して、スタッフがどのように対応しているのか見せてもらいたかった。（能力に差のある集団も多いと思うので）
- ・施設へ行った3日間で、人が変わるものでもないと思われるので、しばらくたって、アンケートをとっても良いと思った。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・事業実施に当たり、4回の事前打ち合わせを行ったことで、東海市側の意向を十分に考慮しながら、プログラム構成を行うことができた。また、その打ち合わせにより、本施設との意識の共有を図り、チームとしての動きがしっかりととれていた。

- ・ 事前に、2つの適応指導教室に通級している参加者たちと、学生ボランティア数名との交流会を開催したことで、参加者の精神的ストレスを和らげ、スムーズに当日の活動がスタートすることができた。
- ・ 「表情に変化が見られた」「言動に自信がうかがえる」など、児童・生徒の直接的な変容が3日間のプログラム実施中に見られた。
- ・ 参加児童・生徒と日常接している機関と連携することで、事業中の変化および事後の様子の追跡が詳細にできた。参加者の新たな人間関係の広がりや、事後の日常生活の中で意欲的な行動傾向が見られたことなどがわかっている。

(2) 課題

- ・ 客観的な評価を何でどのようにしていくのかを今後検討していきたい。
- ・ 海の活動だけにとどまらず、山の活動も含め、本施設のプログラムを有効に提供できるように研究していきたい。

5. 活動の様子

